

インターンシップ報告書

石澤 颯大

今回私は、都留文科大学の学生が都留市内の企業のインターンシップ参加できるような仕組みづくりの一環で、株式会社OMT様で2日間のインターンシップを行ないました。

一日目の午前中は司法書士の先生に「司法書士」のお仕事についてお話をお聞きしました。街中の看板でしか見たことのなかった文字列でしたが、先生のおかげで初めて概要を掴むことができました。司法書士とは簡単に言ってしまうと土地(不動産)の権利に関する業務を行う人のことです。普段から売買しているモノと違って、土地はそのものが動くことなく権利が移り変わっていきます。そのため登記簿と呼ばれる書類に様々な情報を書き込んでいき、その土地の所有者等を明確にするのです。普段から身近な存在である土地でしたが、売買の契約手続き等は本当に何も知らなかったので興味深かったです。

その日の午後には株式会社OMT様の関連会社である株式会社MARS様を訪問しました。災害時要支援者の方のリストを実際の地図と自動的に結びつけるソフトであったり、農地の状態を調べる際にiPadを使いその場でデータを送信できるソフトを主に提供しているとのことでした。こうした手間を省いていくことで、少しずつだとしても人手不足を解消できるのかなと感じました。

二日目の午前には大月の法務局を訪ねて、和紙に手書きされた地図のコピーを取りに行く手伝いをさせていただきました。昔の地図のコピーを再度確認し、現在のコンピュータで書かれた地図に訂正箇所があるのかどうか調査するためです。法務局では実際に書かれた和紙の地図をコピーしていただきましたが、和紙がこれほどまでに保存性が高いと知らなかったので驚きました。そしてデータ化が声高に叫ばれる社会であっても、その背景にはこのような地道な作業があることを忘れてはいけなと感じました。

二日目の午後は最初に設計事務所を案内していただきました。実際の現場では何ミリの間隔で何ミリの鉄筋を打つのか等を細かく調整されていて、今住んでいるアパートや大学の施設もこのような設計の上に成り立っているのだなと実感することができました。その後実際の現場を訪問しました。「測量」という言葉を聞くと、道路脇で三脚を立ててロープを張って距離を測っているようなイメージがありましたが、最近の測量はまるで異なったものでした。ドローンを現場上空に飛ばしたり3Dスキャナーというものを現場に置いて、大量の画像を撮影し無数の点の集まりによってコンピュータ上に現場を再現することができるそうです。それ以前は「現場を覚えてこい」という世界でしたが、今では「(コンピュータ上に)現場を持ってこい」と言われているそうです。街中にある建物はすべて測量された上に建っているという言葉が非常に印象的でした。

今までは建物はそこら中に建っているけれど、その建物がどのように作られているかを考えたことはありませんでした。しかし今回のインターンシップを通して測量をはじめとする土地(不動産)に関する様々なお仕事を学ぶことができたことで、普段歩いている街並みの見方がガラリと変わりました。2日間という貴重なお時間を割いていただき、本当にありがとうございました。